の病には 純精糖
發賣元 大橋

全部で五十一名となる
怠業狀態依然繼續

八幡製鐵所に於ける六日午後六時頃職工大盟休後の形勢を聞くに六時更代せる職工は五日朝集團を造りて不穩の擧に出でたる分子の加はれる事とて其の筋にては特に注意を拂ひ警戒を嚴重にし續々應援に來れる八屋、福岡、柳川各署の警官約四百名を入門せしめて萬一にソナヘたるより職工側は手も足も出でず僅かに夜十一時頃溶鑛爐附近に約五百餘の集團蜂起し喊聲を揚げて中央機關方面に向つて進行せんとせしも警官にさへぎられて目的を達せず徐々に解散をなしたる以外前日の形勢と異ならず依然サボタージュを敢行し偶々作業せる者あれば脅迫して之を中止せしむる等狼藉の極を盡くせり

▲西田健太郎以下逮捕 全部五十一名

勞友會副會長西田健太郎は五日朝人夫に變裝して入門し群集中に立つて煽動的演説をなしたる

姿を見失ひ其の後血眼となりて同人の行衛を捜査中六日午後八時頃八幡署永松部長黒崎方面警戒中田町停留所附近に於て之を發見したれば尾行せるとも知らず勞友會診療所に這り且つ床屋に立ち寄りて髮をおこして變裝し十一時頃上りの電車にて門司に出で大阪に向はんとするより今は猶豫ならずと小倉勝山橋停留所にて逮捕し下りの電車にて引返し外に八幡署に拘引せられし者左の如し

杉川未太郎、吉本三七、原又六、中山修藏、鹿毛京太郎、秋山金平、金光幸吉、柳井惠黒木筆松、待鳥辰次郎、田代與太郎、末次安次郎、有川彥六

▲七日の朝 人夫達 聊か動搖す

七日朝六時人夫入門に際し役所側は各供給人に二千名の入門命令を發し居りたるも約四千の人夫東門前に集合し入門拒絶せば暴行の擧に出でんとする形勢を示し喊聲を揚げて騷ぐより事態容易ならずと見て直に部長會議を開きて全部の入門を許可せしより幸ひ事なきを得たり

▲或は軍隊の出動を見ん

製鐵所全職工[illegible]の兆[illegible]々鮮かなるより[illegible]では既に職[illegible]の如く北九州[illegible]警察署員の動員に尚不足を感じ大牟田・福岡、柳川等より應援を求め其他を中山小倉憲兵分隊長の引率せる憲兵二十名にて警戒せるも一朝惡化して暴擧に出づれば右の如き人員にては到底制止することゝ不可能なれば六日小倉師團に交渉し何時にても軍隊の出動出來得るやう準備あれば七日六時以後の形勢によりて或は軍隊の出動を見んやも計り難し

▲同志會の發會式 今後の態度如何

温和派の評あるもの

製鐵所職工有志にて組織せる同志會は厚坂工場の記錄工勝野某

は八幡若松方面の要塞地帶視察のため三日より出張この序を以て四日八幡製鐵所を視察せるが歸來往訪の記者に語りて曰く

予が四日製鐵所に到り所内を見學したる時には何等不穩の狀態なかりしも歸來職業罷業事件の報に接して驚愕を禁ぜざりし予が中川次官に面語しその見學の便を與へられたるに對し一言謝意を表して別れたる時職工の

■代表者

とも覺ゆる男十數名次官と會見中なりしが後に至りてその時彼等は例の要求問題を提て會見中なりしならんと想倒せり予は初對面なりしも中川次官は實に沈着なる紳士にして談偶々職工の勞銀問題に及びし際次官は不當の要求は斷乎として拒絶すべしとの口吻を洩らしゐたり殊に八幡は小倉衛戍地にも近接せることゝ故警へ職工の怠業繼續するとしても

■無秩序

の狀態には至らざるべく製鐵所側にもこの點は意を強くし居るもの〻如くなりし目下製鐵所内における在鄕軍人の職工は約二千名あるよしなるが彼等は何れも柔順にしてよく上長の命に服し職工として

は感じゐたるが苟くも在鄕軍人たる職工の念頭には常に

■國家を

忘れず故に他の職工等の如く他の煽動に應じて輕擧に出でざる事は勿論なれば宜しく彼等に良職工的教育を施し以て一般職工に及ぼし改善陶治するの必要あるべしと予も挨拶したる譯なり尚進んでは同製鐵所の職工に對しては時々小倉師團所在地の團隊長以上を聘して時々精神的講和をなし以て彼等の頭腦に

■軍人的

精神を叩き込む必要あらざるなきか兎角妙な思想問題の喧傳さるゝこの際堅實なる思想を養成することこそ肝要なるべし云々